



第4号

発行

広島市袋町1-1
松島医院内

広仁会広島支部

松島 陸

電話(4)4718

印刷

庄原市本町

平和印刷株式会社

電話(2)1145

主な目次

医学資料館の発足	1
支部長総会挨拶	2
本部報告	3
定例総会・懇親会	3
新規開業・栄転	5
病院紹介	9
役員会報告	10



広島大学医学部医学資料館

の発足と今後の課題

田中正四

昭和五十年が、わが医学部の前身である広島医学専門学校が開校して、満三十年に達するということで、記念事業会が出来、たまたま小生がその実行委員長を仰せつかり、企画運営に当ることとなった。そこで三つの記念事業が計画された。

一、広島大学医学部創立三十年誌の発行

二、富士川游先生顕彰碑の建立

三、医学資料館の開設

一と二は曲がりなりにも形をなしたのであるが最後に残った医学資料館の開設は到底小生の様な非力な人間の手におえぬので、その旨、学部長に申し出て西本幸男教授に後任になってもらった。西本教授の手腕や当時の飯島学長、沢野・

矢村学部長の後盾もあって十一号館の約三分の二ほどが改修され、一部を学内の食堂に使うこととして、全額国庫負担で五月中旬に工事は完了した。

初代の館長には、その方面の造詣も深く、三十周年記念事業会が発足した最初から顧問役として種々御援助を頂いた西丸和義元教授が適任であろうと思ひ推薦していたが、管理運営の規約上、どうしても現職のものしかなれないことになり、またこれまで設立準備委員長であった西本教授が附属病院院長に就任し、これが劇職であるので兼務はむりとのことで、遂に小生にそのお鉢が回って来た。

非力の館長を補佐するため三人の副館長をお

くことにした。藤田(解剖)教授、盛生(麻酔)教授、田中(薬学)教授の三人で、藤田教授が資料集収担当、盛生教授会場・展示担当、田中(治)教授が資金調達担当とそれぞれ分担をきめ運営委員の協力を求めて十一月二日の開館式を目指して準備にとりかかることになった。なお専任の事務担当者には、前教育学部事務長の長沼氏が発令された。

三十周年記念事業の資金として募集した中から記念誌の発行と顕彰碑の建立のために支出した残りが二千八百万円あるが、そのうちから八百万円を開館準備のため使うことをきめ、すでに支出を始めているが、これと同額ぐらいの募金を計画している。この両者で一応の体裁を整えて開館にこぎつきたいと考えている。

人件費、維持費は緑風会、広仁会、医学部、医師会などの拠出金、依託研究費の一部などによって何とかまかなう方針をたてているが、今後の資料館の発展を期待するには余りにも貧弱な財政事情で当事者としては最も頭を痛めている所である。各位の物心両面にわたる御支援を重ねてお願いするゆえんである。